

高森町がふるさとだよ!!

いち だ がき

干し柿の王様ゝ市田柿、が 生まれたものがたり



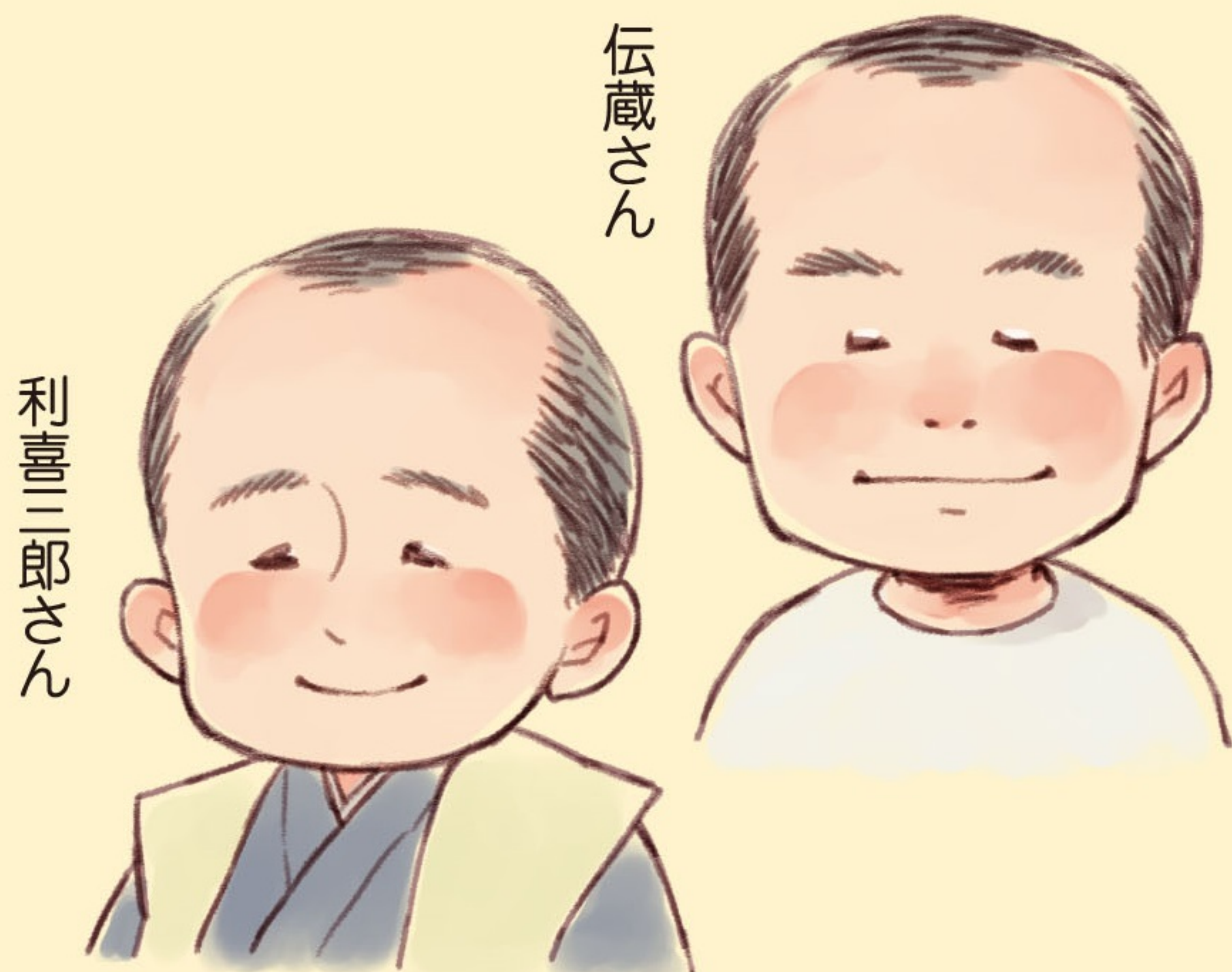
市田柿誕生のものがたり
ボクがおしえてあげるよ!

高森町は、
市田村と山吹村が
合併して
できたんだよ。

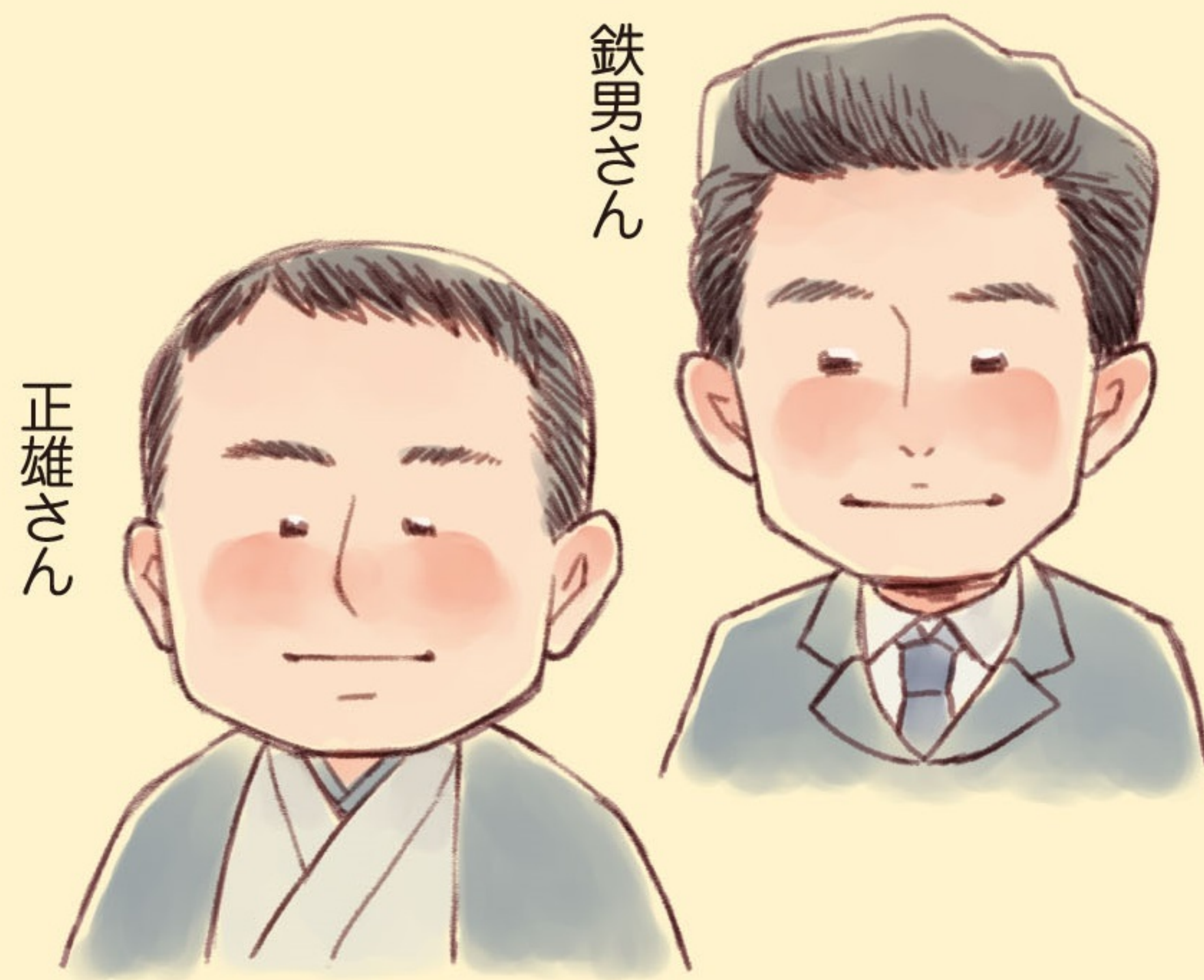


むかしむかし、 市田村の農家の人たちが 「市田柿」をつくったんだ!

市田柿を育て広めた人々



ふくざわり きさぶろう でんぞう
福澤利喜三郎・伝蔵さん親子
市田柿の苗木をつくって
売りました

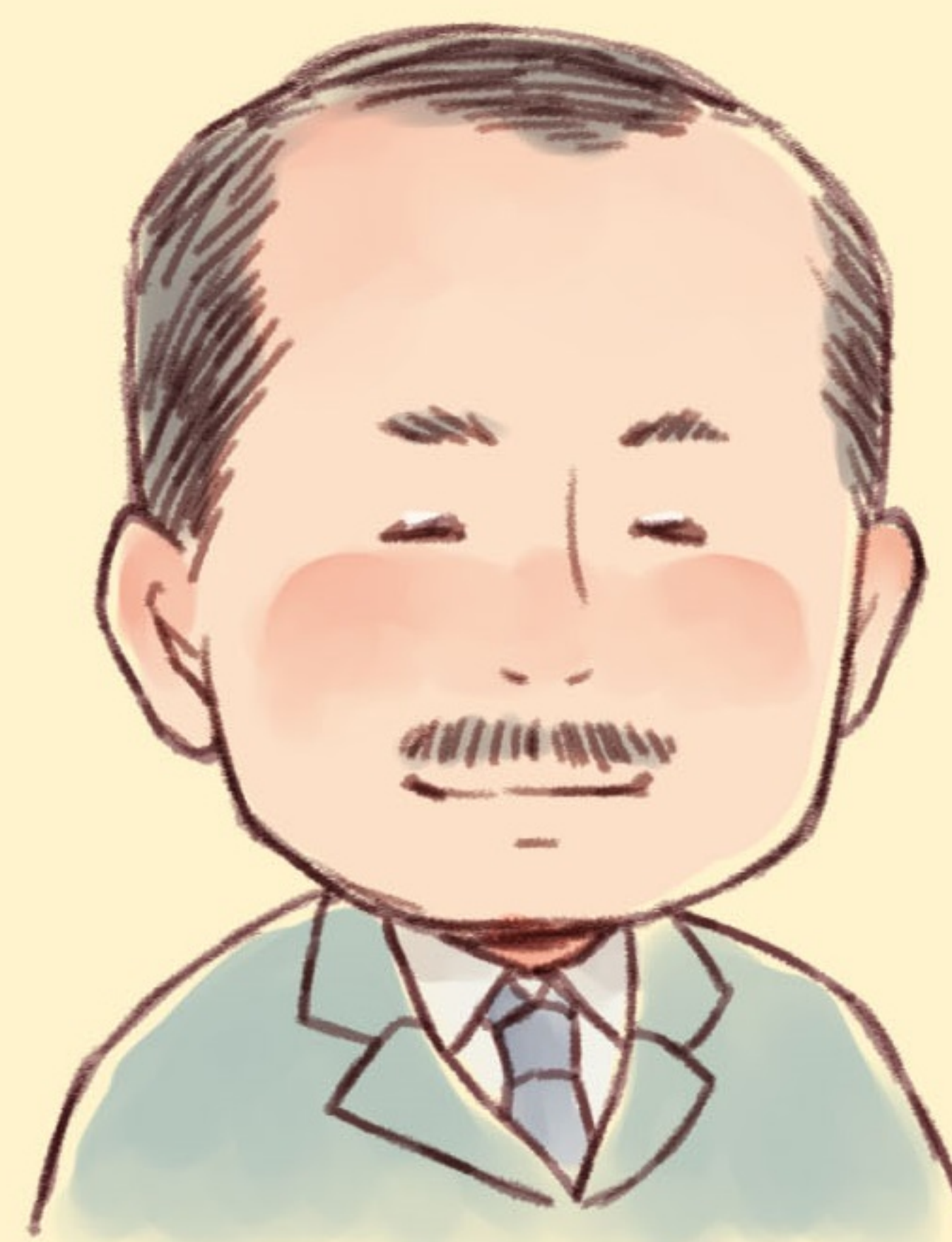


かみぬま まさお てつお
上沼正雄・鉄男さん親子
市田柿をつくって都会の
市場へ出しました

つくったり売ったりする
努力がなければ、
市田柿は生まれなかったんだよ。
市田柿が生まれた話を、
きみたちに
知ってほしいんだ!



さかい やす
酒井安さん
市田柿をつくる農家を
増やしました



はしづめ まさのぶ
橋都正農夫さん
「市田柿」の名付け親で、
売ることに努力しました

明治四〇年（一九〇七年）

いまから二〇八年まえ

上沼正雄さんは、

現在の高森南小学校と

萩山神社の間にある

「寺山」と呼ばれる

二ヘクタールの斜面を耕して、

焼柿（のちの市田柿）の苗木を

200本植えたんだ。

ここから市田柿の

生い立ちが始まるんだよ。

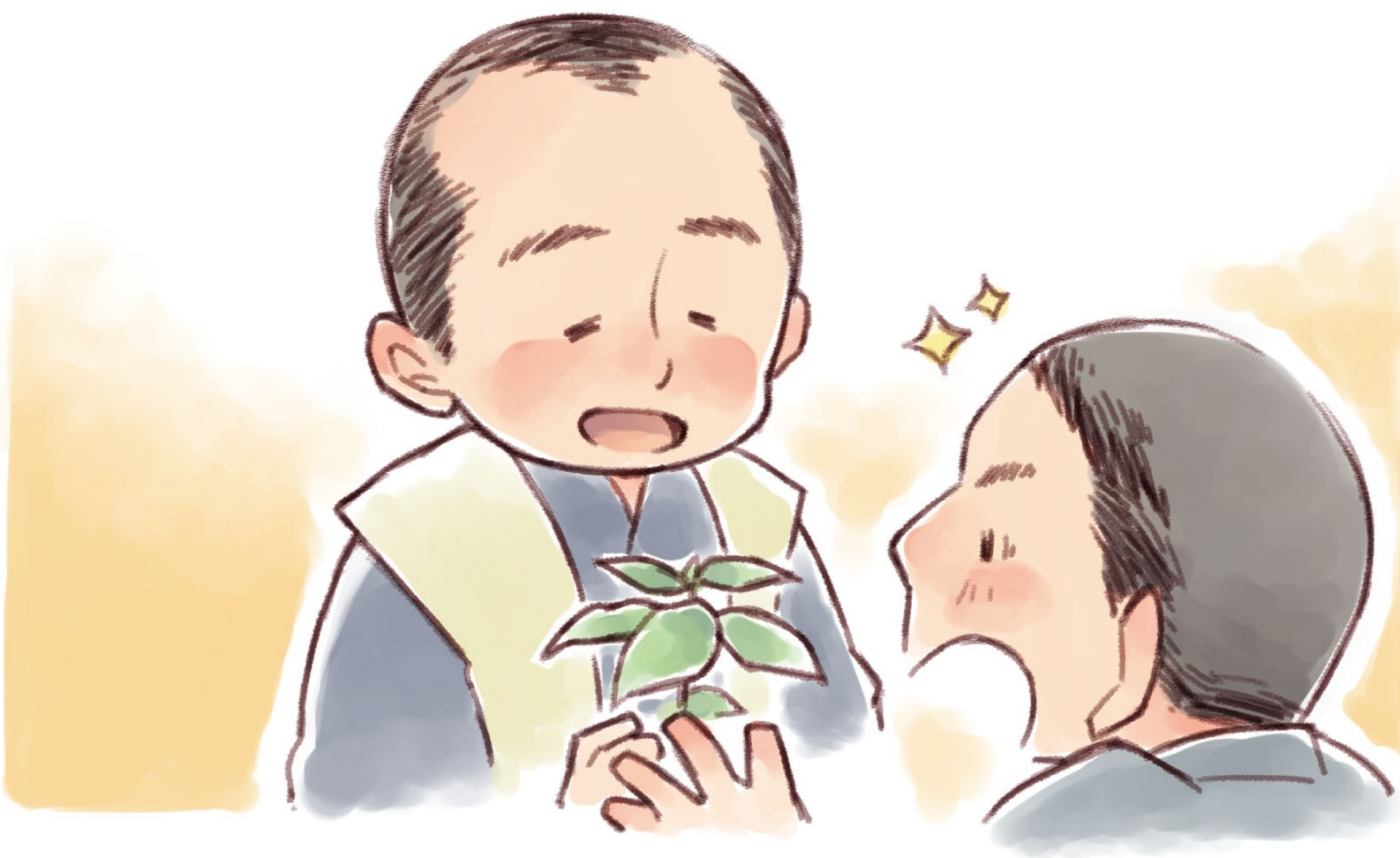


このときの苗木は、

下市田で柿の苗木店を営んでいた

福澤利喜三郎さんから仕入れたと

いわれているんだ。



大正二〇年（一九二二年）
いまから九四年まえ

上沼正雄さんは、橋都正農夫さん、
酒井安さんたちと協力して、

それまでの焼柿を

地元・市田村の名前を使って

「市田柿」に変えたんだ。



そして東京や名古屋、
大阪の市場へ出荷したんだ。

これが「市田柿」という商品が

生まれた始まりだよ。

しかし結果は売れなかったと
いわれているんだ。



でもこれに負けることなく

研究を重ね、おいしく見ばえの良い

「市田柿」づくりに努めたんだよ。

上沼さん、橋都さん、酒井さんは

市田柿が発展する基礎を

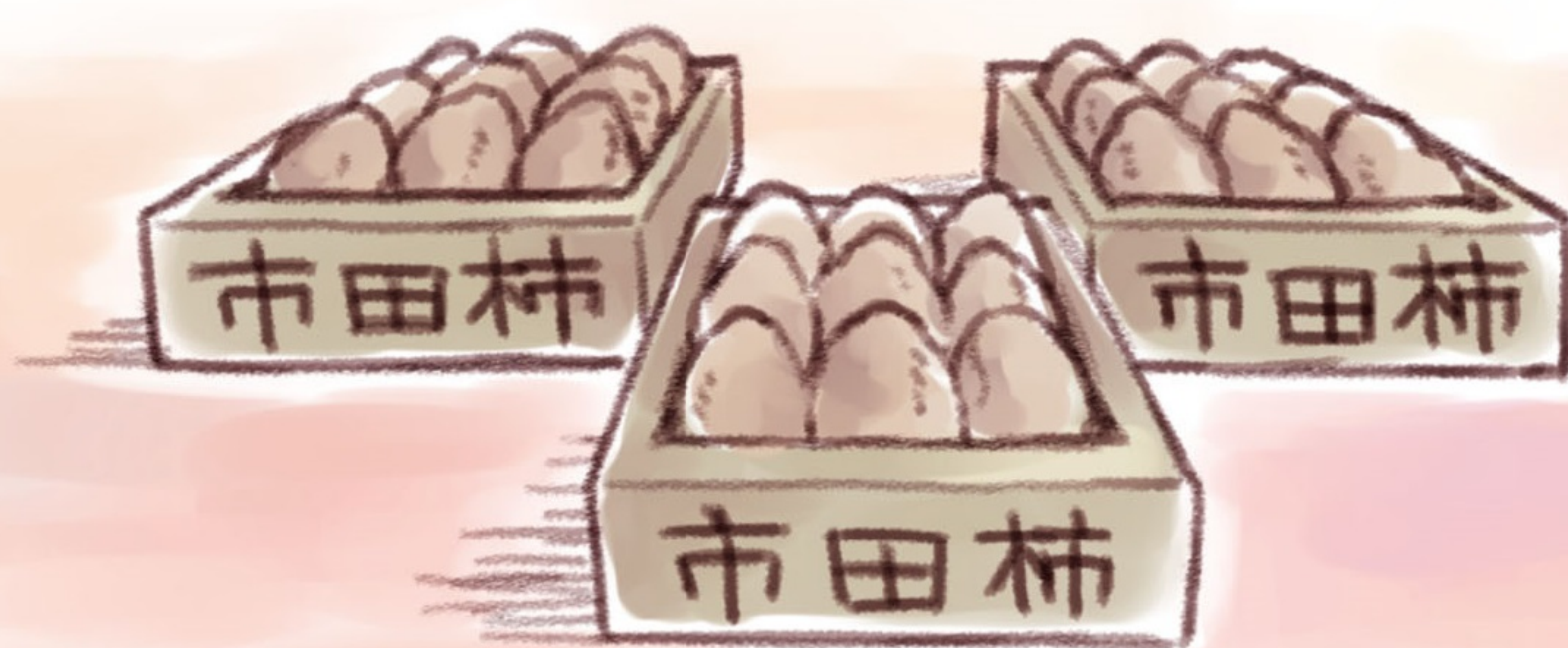
つくった人たちなんだよ。

昭和十二年（一九三七年）
いまから七八年まえ

上沼正雄さんの息子・鉄男さんは、
正雄さんが果たせなかった
市田柿の大都市への進出を
実現した人だよ。



正雄さんが亡くなるとお父さんの意思を継いで、
本格的に農業を始め、市田柿を都会の
市場に出荷することに努力したんだ。
やがてその夢が本物になる日がやってくるんだ。



昭和一九年ころ（一九五四年）
いまから六一年まえ

目標をもってがんばっていると、
いつかは本当になるんだね。

名古屋や東京の市場で、ついに市田柿が
認められたんだ。



上沼鉄男さんは農家がつくった

「市田柿」を集めて、

名古屋や東京の市場へ出荷したんだ。

市田柿の出荷量の多さを

伝える話が残っているよ。

市田柿を満載したトラックが

名古屋へ向かう途中、

重すぎて治部坂峠を越えられず、

後ろから人の力で押したんだって。

大都市の市場で

品質が認められてきたから、

出荷量も増えていったんだね。

福澤利喜三郎さんの息子・

伝蔵さんは、ちょうど同じころ、

増える苗木の注文に応えて、

飯田から豊丘、伊那、

岡谷の辺まで出かけ、

市田柿の苗木を広めたんだ。





市田柿を出荷したときの
木箱だよ。「上沼柿園」の文
字が見えるね。箱の中には
市田柿を紹介するしおりも
入れたんだ。しおりには市
田柿のむかし話が書かれて
いたんだ。
『百姓の作兵衛というおじ
いさんが、白い鳥が落として
いった金色の柿の種を拾いま



した。おじいさんがその種を
まいたところ、大粒で色がよ
く美味しい実がなって、近所
で評判となり広まりました』



それから市田柿は多くの人たちによって、
南信州全域でつくられるようになったんだ。
そして今では長野県の特産になって、
干し柿の王様といわれるようになったんだよ。
農家の人がふるさと市田村の
名物にするために、
大きな夢をもって、いっぱい努力をして、
その夢を実現してしまっただんだ。



思いを強くして、
夢に向かって努力を重ねていけば
必ず実現するものなんだ！
これを読んでいるきみたちも
実現したい夢をみつけよう！



高森町キャラクター 柿丸くん

12月1日は
市田柿の日！

市田柿をいつまでも多くの人たちに味わって
もらうために、市田柿のシーズンが始まる
12月1日を「市田柿の日」にしたんだよ。